

037 南北朝時代 政治史2 南北朝の動乱

◎^{くすのきまさしげ}楠木正成の献策(幕府を創るべき)
 楠木正成は、平和のためには源氏子孫の足利幕府を創ることが一番現実的だと考えていた。
 →後醍醐、武家政権をあくまで拒否。

◎^{みなとがわ}湊川の戦い(兵庫県 神戸 市)
 尊氏の大軍に敗北、楠木正成 自害。
 弟の楠木正季も自害。「七生報国」
 子の 楠木正行 は父に逃がされた。

◎天皇が初めて2人同時に並び立つ
 ◇公家、武家、庶民の支持を失い、
 後醍醐天皇、退位を認め、三種の神器渡す
 ◇**1人目**…足利尊氏、京都 に
光明天皇 (持明院統) 立てる。
 ↳後醍醐と逆

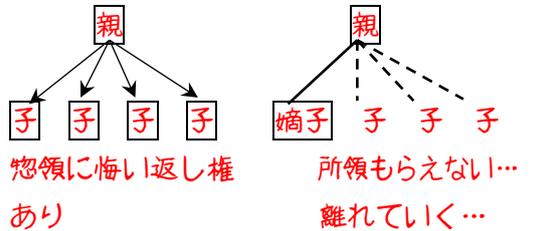
◇足利尊氏、建武式目 発表
 幕府の政治方針の発表。
 ◇尊氏が征夷大将軍に就任
 ↳のちの室町幕府を開く。

◇後醍醐、吉野 へ逃亡
 (足利尊氏、半分わざと逃がす)
 ◇**2人目**…後醍醐、退位否定(南朝)
 「渡した三種の神器は偽物だ」

南北朝の動乱が長引いた2つの原因
 あ「観応の擾乱」で北朝内部が不統一
 → 南朝の息の根を止められない。

い単独相続が一般的になり、
血縁の中で敵味方に分かれた から。

<鎌倉時代> <南北朝>
 ①分割相続 ①嫡子単独相続
 ②惣領が一族を統率 ②血縁的結合バラバラ



法規は引き続き
 「御成敗式目」と
 「建武以来追加」

嫡子が死んだら、
 兄弟にチャンス。
 嫡子が北朝なら
 兄弟は南朝に行く。
 嫡子が南朝に寝返つたら、
 兄弟は北朝側に味方する。

<北朝内部で仲間割れ>

◇足利尊氏…やる気無。大好き弟に委任。
 後醍醐病死して号泣。一層やる気なし。

◇ 観応の擾乱 の仲間割れ内戦状態

政治の長 <u>足利直義</u> (尊氏の弟) 生真面目 源頼朝像 <u>尊氏が毒殺</u>	軍事の長 <u>高師直</u> (尊氏の執事) <u>兵糧米</u> 現地調達 他人の土地を恩賞 <u>新興武士集まる</u>
---	--

<南朝は軍事的に劣勢>

◇後醍醐が 吉野 の山中にこもり、皇位の正統を主張。
 ◇新田義貞戦死。
北畠親房 を中心に抵抗。
 →常陸の小田城で神皇正統記。
 ◇後醍醐 死去 → 後村上 即位。
 ◇勝てないと分かっているにも
楠木正行 奮戦 → 敗死
 →吉野陥落、賀名生 に遷都。

南北朝の対立
 ✕
 六十年にわたる内乱状態